



12月1日(金)の予定
雑誌評論、会員卓話
12月8日(金)の予定
休会(クラブ定款)

世界に希望を生み出そう

2023. 11. 17. No. 15 通算No.1818

事務所/松本市深志 1-1-21 中田歯科ビル 5F 委員長/望月一将
TEL:0263-36-7737 FAX:0263-36-6009 副委員長/百瀬敏男
例会場/ホテルブエナビスタ 例会日/金曜日 12:30 委員/土屋 太田 村山 手島



通常例会 ホテル・ブエナビスタ 深志楼
司会 古畑会場監督委員
点鐘 12:30 永田会長
長年在籍者表彰
☆40年:井上保会員、百瀬敏男会員、北村孝一会員
☆30年:太田隆治会員、相澤孝夫会員



今月の祝・表彰

☆会員誕生：井上保君、北村孝一君、土屋久君、菅谷昭君
☆夫人誕生：内山真由美君(配偶者誕生祝)
☆結婚祝：中田金一君、吉池裕一君



会長挨拶 永田会長

今回は地区大会、IM・会員セミナーが開催されるため、通常の例会は本日のみとなります。先日の地区大会に参加された皆さんご苦労様でした。今大会は松本で開催され「ポリオでひとつ、世界も地区も」のテーマのもと「ポリオのない世界まであと少し」とするロータリーの活動の集大成ではなかったかと思えます。当日は、松本マラソンのスタート時間と重なり、交通規制のため、開催が10時30分と1時間遅れとなりましたが、大会は内容の充実したものであったと思えます。特に午後の部の基調講演では、新型コロナウイルス感染症対策分科会委員長として尽

力された尾身茂先生の「人類の感染症との闘い」と題しての講演は一般参加者を交えての講演で、これまでの感染症との闘いは心打たれるものでした。

大会1日目の会長・幹事会には、靱山幹事と出席しましたが、本会議での米山ホームカミングとして「米山記念制度70周年の歴史を理解する」と題しての、古川パストガバナーによる研修では、ロータリーの活動は世界をつなぐ、ロータリー米山記念奨学事業の「使命」は、将来、日本と世界を結ぶ『架け橋』となって、国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成すること。これはロータリーが目指す『平和と国際理解の推進』そのものであり、米山記念奨学事業は「人を育てる事業」であると訴えられました。その後、初めての試みとして、米山奨学委員会委員長・町田清氏をコーディネーターに、国際ロータリー会長代理の林華明(リン・ファミン)氏、米山親善大使の陳瑤(チン・ヨウ)氏、長野保険医療大学助教ヒー・チン・ピン氏による「米山奨学会の意義と未来を考える」をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、時間を大分超過するほど盛り上がりしました。

幹事報告

靱山幹事

- 1. 11月のロータリーレートは1ドル149円です。
- 2. 次週11月24日は移動例会、25日(土)ほりで一ゆー四季の郷にてIM・会員セミナーです。
- 3. 信州松本空港冬期利用促進助成金制度について、希望の方は事務局までお問合せ下さい。
- 4. 例会変更については、引き続き現在のどのクラブでもビジター受付は実施されていません。ご了承下さい。

出席委員会報告

小林正樹委員

本日11月17日 欠席9名 出席率約71.87%

ニコニコBOX報告

飯島委員

・本日雑誌評論をさせていただきます。よろしくお祈りします。小林あや君
・寒くなりました。身体に気を付けてください。永田君
・財団特集を担当します。眞峯君
・先日馬齢を重ねて86歳になりました。よろしくお祈り



い致します。北村君
〔長年在籍〕井上君 〔結婚記念〕中田君、吉池君
〔会員誕生〕北村君、井上君、土屋君
〔何となく〕糸山君 〔本日早退〕村山君
〔写真掲載〕村山君、永田君、百瀬敏男君、土屋君、
高波君、舘島君

☆☆☆ 本日のプログラム ☆☆☆



【雑誌評論】小林あや委員

RI 会長によると、新しくロータリー平和センターがトルコにできるそうです。世界には7つの平和センターがタイ、アメリカ、イギリス、日本、

オーストラリア、ウガンダ、スウェーデンにあり、新たにトルコが加わります。全ての平和センターは大学に設置され、国際政策で修士号を取るという目的で、これまで1700人を超える平和フェローを輩出し、平和の世界を築くために140カ国以上で活躍しているそうです。トルコに平和センターができるということから、平和に向けて切り開いていってほしいと願います。

次に、グローバル補助金申請ガイドです。私達もいろいろ財源を調達していく必要があると思います。計画を立てたりと大変ではありますが、チャレンジしていくことも面白いと思いました。例えば日本はインドネシアやフィリピンなどと特定技能研修制度を結んでいます。整備士ですと2号資格が認定されると、ほぼ永久的に日本で働くことができます。しかし、介護分野は1号認定しかないので、介護福祉士という日本人と同じ資格を取らない限り、5年で国に帰らないといけません。私達の税金で海外人材を育てても、資格が取れないと国へ返すこととなります。日本語支援や資格を取りやすいような支援など、いろいろロータリーで話し合えればよいと思います。

最後に UNHCR(国民難民高等弁務官事務所)という国連の組織について、第8代長官弁務官を務めていたのが日本人の緒方貞子さんでした。緒方さんはとにかく現場主義を貫いたそうです。そして、緒方さんは常に前例にとらわれず、今何をすべきかということをしつかりと自分の目で見てから考え、みんなで話し合った上で最終的な判断を下して、新しいことを始めたそうです。彼女の魅力とは、①並外れた体力②エレガントな言葉遣い③学ぶ力の大きさ④楽天主で、希望に焦点を当てていた⑤ぶれない信念⑥人のために尽くす意義と重要性を表すロータリーの超私の奉仕だったと書かれています。緒方さんの言葉があります。「人間が生きる上で一番大切なことは、人生という与えられた貴

重な時間の中で、自分を十分に生かしていくこと。地球上の誰もがそうした人生を送るためにも、まず1人1人が、いつもどこかに苦しんでいる人がいることを忘れずにいてほしい。そして地球上、ともに生きる人間としての連帯感を持ち続けてほしい。」私もさらに頑張らねばと思いました。

【ロータリー財団月間特集】 眞峯透委員長



ロータリー財団は、1917年米国ジョージア州アトランタで開催された国際大会において、アーチ C. クランフが「全世界的な規模で慈善・教育・その他社会奉仕に分野でより

よい事をするために基金をつくろう」と提案したことに始まる。現在ロータリー財団には、ポリオプラス、地区補助金、グローバル補助金、ロータリー平和センターの4つのプログラムがある。このうちロータリー財団の補助金は、地区補助金とグローバル補助金の2つがある。地区補助金は、地区財団活動資金(DDF)の50%を上限にクラブや地区が比較的短時間で1回限りの小規模で国内(地元)・海外の事業どちらにも参加でき、プロジェクトの分野は問わない。一方、グローバル補助金は、財団からの大きな支援の下、より長期的な視点から持続可能な活動に参加し、7つの重点分野に沿った多大な影響をもたらす大規模な(30,000ドル以上)プロジェクトや活動に補助金を活用する。

地区補助金はクラブ事業が常に新鮮味を維持し、各クラブが事業規模の大小を問わず新しい奉仕活動を積極的に進めることを要請している。その反面でクラブ事業の一定の効果を確保するためには、活動がある程度継続する必要もあると考えられる。毎年の事業実施にあたりクラブ内で活動方針について十分に協議し、クラブ事業のテーマが継続的であっても、従前の活動の反省点を反映させるなど活動方法自体に変化をつけることが必要となる。

新たなクラブ事業を立案することなく特定の事業を毎年継続することは、クラブ活性化資金という地区補助金の原則的な考え方に則していないということを念頭に置いてクラブ事業を進める必要がある。

【点鐘13:30】 永田会長

≪40周年記念実行委員会≫

